

## 保健体育 (Physical Education IV)

担当教員名	松下 幸一、前田 忠紀、後藤 太之	
学科・専攻, 科目詳細	都市システム工学科 4年 通年 2単位 実技	
学科のカリキュラム表	一般科目 必修科目	
共生システム工学の科目構成表	教養科目 保健体育系	
学習・教育目標	共生システム工学	A-3(90%) B-3(10%)
	JABEE基準1(1)	(a)
科目の概要	スポーツの技術・能力を高めるとともに、好ましい社会的性格を養い、スポーツを安全に楽しむことができるよう指導する。 ゲーム中心の授業計画のなかで、各種目(バレーボール・卓球・軟式野球・ソフトボール・バスケットボール・バドミントン・サッカー)の基本技術、応用技術の習得を目指す。	
テキスト(参考文献)	新版保健体育概論(近畿地区高専体育研究会編:晃洋書房)	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニングウェア、運動靴を着用すること。</li> <li>・アクセサリ類、時計、その他不必要な物の着用を禁止する。</li> <li>・遅刻は開始20分まで。20分以後の参加は認めるが欠席扱いとする。</li> </ul>	
科目の達成目標	(1)積極的に授業に参加し、社会性・協調性を向上させ、安全に楽しんでスポーツをすることを目指す。 学習教育目標/A-3,B-3  (2)自己の体調や身体能力を把握し、健康保持、さらには体力の向上を目指す。 学習教育目標/A-3  (3)ルールや基本技術・応用技術を習得し、ゲームに参加することを目指す。 学習教育目標/A-3	
自己学習	各種目における技術、戦略、戦術、ルール等の学習を積み重ねる。また、日頃から体力の維持向上に努めて、体調管理にも気を配る。	
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/4以上の欠課
	出席・授業態度(80%) 実技テスト(20%)で総合的に評価し、評価点が60点以上の者を合格とする。	
	(1)履修上の注意事項を守り、安全に配慮することができる。またグループ(チーム)に貢献する意思を持って行動・プレイができる。  (2)ルールを理解し、ゲームに参加できる技術を習得している。 ・バレーボール...パス(オーバー・アンダー),サービス ・卓球...フォアハンド,バックハンド,サービス ・軟式野球、ソフトボール...キャッチボール ・バスケットボール...パス ・バドミントン...ストローク(オーバーヘッド・アンダーハンド) ・サッカー...インサイドキック	
連絡先	koichi@akashi.ac.jp(松下幸一) / tgotoh@akashi.ac.jp(後藤太之)	

授業の計画・内容	
第1週	<b>ガイダンス</b> 各種目の希望調査等
第2週	<b>各種目にて練習とゲーム</b> バレーボール、卓球、軟式野球・ソフトボール
第3週	〃 〃
第4週	〃 〃
第5週	〃 〃
第6週	〃 〃
第7週	〃 〃
第8週	〃 〃
第9週	〃 〃
第10週	〃 〃
第11週	〃 〃
第12週	〃 〃
第13週	〃 〃
第14週	〃 〃
第15週	〃 〃
期末試験実施せず	

授業の計画・内容	
第16週	<b>ガイダンス</b> 各種目の希望調査等
第17週	<b>各種目にて練習とゲーム</b> バスケットボール、バドミントン、サッカー
第18週	〃 〃
第19週	〃 〃
第20週	〃 〃
第21週	〃 〃
第22週	〃 〃
第23週	〃 〃
第24週	〃 〃
第25週	〃 〃
第26週	〃 〃
第27週	〃 〃
第28週	〃 〃
第29週	〃 〃
第30週	〃 〃
期末試験実施せず	